

<全体分析>

試験時間 60分

解答形式

マーク式32問 (語句選択9問 正誤判定22問 年代整序1問) 記述式14問 計46問

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は4題で変化はなかったが、小問数は5問増加して46問となった。語句選択問題は8問から9問、記述式は10問から14問に増加した。正誤判定問題は22問で変化はなかったが、そのうち3つの短文正誤の組み合わせ問題は1問から4問へ増加した。

出題の特徴や昨年との変更点

例年どおり、大問4題がすべて複数の時代にまたがるテーマ史問題であり、各分野からの網羅的な総合問題が続いている。テーマ史なので必ず大問ごとに近代史が出題されるが、その比率は年度によって異なる。今年度は近現代史からの出題が9問から17問へ増加 (そのうち戦後史は1問から4問へ増加) した。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 正誤判定 記述	古代～現代の文官と武官	問5のウは藤原隆家が大宰権帥であることから、撃退したのは都から派遣された国の兵ではなく、九州の武士だと想起したい。問8のエは曖昧な表現で誤文とみなすこともできるかもしれない。全体的には標準的な問題が多いので、取りこぼすことなく得点したい。	やや易
II	正誤判定 記述	岡山県の史跡から見る古代～近代の歴史	問2は難。問3のエは「17世紀の終わり頃」という時期から誤文と判断できただろうか。問5は正文の判定が難しく、エの誤文判定も少し細かくやや難。問7はX・Yが誤文だとわかれば、選択肢から正解できる。問8は「備前で創始」から黒住教を判断 (金光教は備中) するのでやや難。	やや難
III	語句選択 正誤判定 年代整序 記述	原始～現代の日本列島と海との関わり	問1は難。問4は、ろのオホーツク文化の時期を判別するのがやや難。問8は教科書などに航路が地図で示されているが、難。問11はやや難。これ以外の設問は確実に得点したい。	難
IV	語句選択 正誤判定 記述	古代～近現代の日本における人間とウサギの関わり	問1は入試の頻度としては低い。問5は「幕末期」「洋学塾」のキーワードから判断したい。問10は消去法で正解に近づきたい。問11は難。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

従来は標準的な問題が多く、高得点の争いが必至であったが、ここ数年は難度の高い問題が増加している。難度を高めているのは、全体の半数近くを占める正誤判定問題である。3つの短文の正誤の組み合わせ問題も増加しているため、曖昧な知識では正解できない。歴史用語を単純暗記するような学習ではなく、教科書の熟読や過去問を通じた確かな学力を身につけなければならない。また、政治史・外交史を主体とする学習に加え、早い段階から文化史・社会経済史など総合的な学習を進めよう。難度が上がっているとはいえ、標準的な問題も多数出題されるので、そうした問題を取りこぼすことなく正解していくことが何よりも大切であることを意識してほしい。